

ブリュール伯ハインリヒの再評価

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学人文科学研究所 公開日: 2013-05-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飯塚, 信雄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/14430

重ねたとされ、従来、否定的な評価しか受けなかったブリュール伯ハインリヒ(Heinrich Graf von Brühl 1700—63)に対する再評価の気運がドイツでようやくたかまりつつある。政治的、文化的ライヴァルであったプロイセンのフリードリヒ大王のブリュール伯に対する強烈な批評は、19世紀ドイツの史学会を支配していたプロイセンの学会によってうけ継がれ、いわゆる「悪徳政治家ブリュール伯」の伝説を生むにいたった。これに対する反証は、当時のザクセン駐在イギリス大使ウィリアムズや、文化史家マックス・フォン・ベーンらによってすでにあげられているが、ヴァルター・フェルマンの「ブリュール伯ハインリヒ」、ヴァイトリヒ・フレクジヒ社、ヴェルツブルク、1990(Walter Fellmann, Heinrich Graf Brühl. Ein Lebens-und Zeitbild, Weidlich Flechsig Wiüzburg 1990)は、本格的な反論、ブリュール再評価の書として最も注目すべきものである。本論は、こうした最新の業績をふまえ、新しいブリュール伯の人間像、つまり、ザクセン・ロココのメツェン、すぐれた平和外交家、大文化人としてのブリュール像を確立しようとする試論である。

なお、本論に基づき、筆者の退職記念講演会が「ブリュール伯ハインリヒと田沼意次」という題名のもとに、平成4年3月16日、明治大学駿河台研究棟第1会議室において催された。グローバルなロココ文化の有力な担い手であったブリュール伯と田沼意次の両名の相似点をドイツと日本における時代像を背景として比較したものである。

飯塚 信雄

〔研究課題〕 ブリュール伯ハインリヒの再評価

〔発表誌・発行所〕 飯塚信雄教授古稀記念論集

〔表題〕 ブリュール伯ハインリヒの再評価

〔梗概〕 18世紀にザクセン選帝侯国の宰相として失政を